

令和3年度 県立水戸第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像 「至誠一貫」「堅忍力行」の校是のもと、未来を切り拓く創造力を育みながら、予測困難な社会の変化に対応できる教育を実践する学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
	教育課程の工夫改善と学習指導の充実	① 新学習指導要領のもと、中高一貫教育校の特色を生かし、高校での学習内容と関連づけた授業を展開できるような教育課程の工夫改善を行う。	
		② ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	
		③ 夏季課外を円滑に実施し、将来の進路希望実現に資する学力の向上を図る。	
		④ 60分授業の効果を高めるために、さらなる授業の質の向上を目指して、授業に係る研修機会の確保・充実に努める。	
	キャリア教育の充実	⑤ 総合的な学習の時間等を利用し、進路意識の高揚と進路希望の実現に向けたキャリア教育を充実させる。	
		⑥ 卒業生の協力を得て様々な職業を知る機会を設け、将来社会に貢献できる人材の育成に取り組む。	
	健康安全指導の充実	⑦ 健康安全に留意し、心身ともに健康で、生き生きとした学校生活を生徒が送れるよう指導する。	
		⑧ 職員が健康で職務に従事できるよう業務精選に取り組み、評価面談で確認する。また、毎週水曜日を「定時退勤の日」とし、働き方改革を進める。	
	特別活動等の充実	⑨ 特別活動(学校行事、学級活動、生徒会活動)の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。また、高校と連携した「体験型部活動」の円滑な実施に努める。	
		⑩ 学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。	
	将来を見据えた教育活動の拡充と中高一貫教育校としての円滑な運営	⑪ 社会の変化に対応し、本校から世界に羽ばたく人材、グローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献する人材の育成のため、中高一貫教育校としての組織の拡充に努める。	
		⑫ ホームページをこまめに更新し、保護者や本校志望の小学生に本校の特色ある教育活動の情報を積極的に発信するとともに、学校説明会等においては生徒の活躍する場を多く設ける。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		国語の学習に対する意欲・関心を高める。	○授業方法を工夫改善し、指導方法に対する研究を深めていく。 ○導入での漢字や語彙指導、中間の教科書主体の学習、終末の振り返りや問題演習と、60分間を3つのパーツに分け、見通しを持たせた学習を行う。			
		基礎学力の定着を図り、段階的に全国学力学習状況調査に対応できる基礎学力の養成を図る。	○小テストや暗唱等によって基礎学力の定着を図る。 ○新学習指導要領に対応できる基礎学力を培う学習指導の在り方について検討を進める。 ○授業の振り返りを通して、適宜添削指導を実施し、文章読解力と表現力の養成を図る。 ○辞書や副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。			
		自立的な学習を促し、豊かな言語能力を持った生徒を育成する。	○読書意欲を喚起し、毎月読書量調査を実施し、読書感想文コンクールへの取り組みを奨励する。 ○実生活に結びついた必然的な課題の設定や目指す身に付けたい力の提示を毎単元心がけ、グループでの話し合いの学習時間を充実させる。			
社会	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		綿密な教材研究や授業改善を図るとともに、高等学校地理歴史科および公民科への円滑な接続を図るための確かな学力を養成する。	○教員相互間での研修により専門性を高め、生徒の知的好奇心を喚起する授業の実施を目指す。 ○基礎・基本を徹底させるとともに、自ら思考する能力、資料を分析する能力、課題に取り組んでいく姿勢等を身につけさせる。 ○標準単位数を超えた授業時数を生かして、学習した内容を踏まえたプレゼンテーション発表やディベート学習などを実施することで、多面的・多角的に思考・判断し、表現できるようにする。			
		教科研修の充実によって、教員の授業力の向上をはかるとともに、新学習指導要領、中高一貫教育、評価方法の研究を進める。	○ICT機器やソフトウェアの活用方法に対する研究を継続的に実施していく。 ○新学習指導要領、中高一貫教育に対する研究を継続的に実施していく。 ○生徒の学習活動・能力を的確に評価する方法の研究を実施していく。			
数学	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に数学に取り組む態度を育成する。	○予習復習を励行させ、教科書内容や基礎力の定着を図る。 ○課題や宿題について、自発的に行えるように意識づけをさせながら、タブレットを活用して宿題の解答の共有を図る。 ○学年担当者間の連携を密にし、教材の精選と授業内容の充実を図るとともに、多様な見方・考え方を例示するなどして、数学に対する生徒の興味・関心を高める。			
		進路実現のための学力向上を図る。	○単元テスト・実力試験の問題は精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力をつける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることで、相手に説明する力をつける。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
理科	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		知的好奇心を育て、科学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象について探究し、科学的な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように、演示・生徒実験を多く取り入れる。 ○デジタル教科書や、デジタル図説を駆使して授業展開をするなど、デジタル教材を活用して、知識の習得と整理がしやすくなるようにする。 ○担当者の専門性を生かした授業展開を行うことで、生徒に興味・関心を持たせられるようにする。			
		確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○単元テスト・実力試験の問題の精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力をつける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることで、相手に説明する力をつける。			
		中高一貫教育の理科教育の在り方、評価方法、新学習指導要領の研究を進める。	○新学習指導要領に対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、これから本校の理科教育の在り方について検討を進めていく。 ○校内試験や実験レポート、毎時間の学習の振り返りなどの評価への生かし方についての研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
音楽	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		主体的に音楽に触れることで芸術に対する感性に気づき高める意識・態度を育てる。	○多様なジャンルの音楽や音素材に触れる機会を増やし豊かな感受性と表現する力を育む。 ○主体的に音楽に関わる態度を育て、音楽をはじめとするさまざまな芸術に対する関心・意欲を高める。			
		音楽を表現する様々な方法に気づき、自分の感性を活かした表現をめざす。	○歌唱・器楽・創作・鑑賞の各分野を偏りなく指導し、それぞれのつながりを感じながら表現する態度を育てる。 ○発表の場を設けることで他者の表現なども参考にしながら個性豊かな表現を工夫する意欲を高める。			
		音楽を理解しよりよい表現につなげるための基礎的な知識を得る。	○音楽の諸要素(形式・構成・音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱)について学び理解を深めることでさらに豊かな表現をめざす。 ○基本的な唱法・奏法・創作の知識を身に付け、豊かな音楽表現をめざす。			
美術	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○生徒の興味、関心を持たせるため、より多くの作品に接する機会を増やし、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○様々な作風・ジャンルの作品を取り上げ鑑賞させる事により芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。			
		自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間をできるだけ確保するとともに、その内容を精選し、工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○自分の表現を発表する機会を増やし、その表現を生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。			
		新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの指導ができるよう努める。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		自己の体力を把握させるとともに、	○本校生は筋力全般が弱いことが予想されるので、体育授業で毎時補強運動を実践する。 ○長距離走への積極的な取り組みにより、基礎体力の向上を図る。 ○本校生の弱いと思われる部分の強化向上を図る。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。			
		授業時のケガの防止に努める。	○運動の基本動作において、基本となる正しい動き方を身に付けることがスキルの向上のみならずケガの防止に繋がることを理解させる。 ○用具器具の使用について安全第一を心がけ指導する。 ○授業に臨むに当たり、健康観察、コロナ対策、熱中症対策、交通安全に努めると同時に、生徒にも健康安全に対する自意識の向上を喚起する。			
		「保健」をととして心身の健康の保持増進を図る。	○「保健」を通じて、思春期における生徒の健全な成長を促し、地球環境における自らの役割を理解させる。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題と社会的な課題における自身の役割を理解させる。 ○ICTの導入及び積極的活用を図る。			
技術・家庭	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能の習得を目指す。	○小テストを定期的に行い、基礎的な知識の定着を図る。 ○必要用具が1人1つ行き渡るよう整理し、全員が十分な実践的学習時間の確保を目指すことで、基本的な技能の習得を図る。			
		衛生的で安全に留意した実践的・体験的な活動を目指す。	○手洗い、消毒などを徹底し、衛生管理に努める。 ○実習室や使用する用具の管理を徹底し、安全に製作や実習、実験などの活動ができるようにする。			
		生活や社会の中から問題を見いだし、課題を解決する力を育む。	○生活する上で直面する様々な課題に気づけるように発問を工夫し、1人1人が主体的に取り組めるように努める。 ○グループ活動やペアワークを取り入れ、学んだことを生活の中で活用できるように努める。			
外国語	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板等)の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		実践的な活動を通して、コミュニケーションをとるための基本的な知識と技能の定着を目指す。	○基本的な表現の理解を深め、授業時間内に活動の時間を十分に確保することで、知識の定着を図る。 ○言語活動を授業で1回以上取り入れ、より実践的なコミュニケーションの場を設定することで、コミュニケーションの技能の定着を図る。			
		日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする力の定着を目指す。	○ICT機器を活用して、表現する機会をLessonに1回以上計画的に設定することで、思考力や判断力の育成を図る。 ○GoogleスライドやJamboardをプレゼンテーションを活用することで、プレゼンテーションの機会を設けて、表現力の育成を図る。			
		自らの学習を調整する力の育成を通して、主体的に学習に取り組む態度の定着を目指す。	○学習サイトを用いて、自ら学習内容の定着を図れる場を設定し、目標を明確にすることで進んで学習に取り組む態度の育成を図る。 ○授業で学習した内容の確実な定着と自らの学習を調整する力を育成するために、振り返りの時間を毎時間確保し、次時の学習への意欲の向上を図る。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	教育課程の工夫改善をする。	○授業時間増を生かした教育課程を作成し、少人数指導やTTを行うことで、学習内容について発展的なものまで扱えるように努める。			
	授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。さらに、授業の曜日変更により、授業時数の均一化をはかる。また、夏季課外を円滑に実施する。			
	授業内容のさらなる充実を図るとともに、併せてICTの活用を推進する。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、ICT機器(タブレット及び電子黒板等)を利用した授業展開を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
	教育活動を公表する。	○学年と連携して、小学生対象の水戸一高附属中説明会、公開授業の実施により学校を公開する。また、同時に地域住民等に広く水戸一高附属中の教育理念を周知する。			
	統合システムを円滑に運用する。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。			
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	○学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。 ○高校との連携した行事においては、特別活動部が橋渡し役となり、双方に教育的な効果が生まれるよう配慮する。 ○中学独自の行事においては、6年間を見据えた内容になるよう考慮した内容を目指す。			
	部活動を通じて、豊かな感性と健全な心身を育む。	○高校と連携した「体験型部活動」の円滑な実施に努める。 ○体験活動を充実させ、選択肢が増えていくよう配慮する。高校との連携においても、双方に教育的な効果が生まれるよう内容を精査していく。			
	HRにおいてキャリア・パスポートを活用する	○各学年のHRにおいてキャリア・パスポートを作成し、社会の中での自身の在り方を考える。			
進路指導	生徒一人ひとりを深い自己理解に根ざした高い進路目標を抱き、高校進学後に多くの生徒が具体的な進路希望が持てるように導く。	○高校と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ○進路に関して得たい情報を自らすすんで獲得し、その活用がはかれるよう、高校との連携のもとで指導の在り方の工夫に努める。			
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。保護者に対しては、保護者対象の進路講演会や医学部進路講演会等も実施し進路情報の提供に努める。 ○生徒・保護者・教員の3者にとってより有益なものとなるよう「進学資料」、「進路の手引き」の改善を進める。			
	生徒のデータを、6年間通して見渡せるような進路情報システムの構築を進め、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、一層の進路指導の充実を図る。	○6年間の学習成績と最終的な大学の可否がリンクした形でのシステムを構築、職員研修等を実施し、進路指導における有効活用をはかる。またこのデータベースを活用して指導に有効と思われる出力形態についても研究を進め、活用の中を広げていく。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
研究構想	「チャレンジ・プロジェクト」(プロジェクト「図南2」ー21世紀型スキルを備えたリーダーの育成ー)を充実させる。	○「心に火をつけるフォーラム」、「校風の理解(講演会)」等の行事を通して、自分の在り方や生き方、進路について考えさせる。 ○課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して自ら課題を発見し、多様な視点から論理的に考察する力や自らの考えを他者に上手に伝える力を培う。 ○将来リーダーとして社会貢献のできる人材育成を目指す。			
	教員の授業力向上を図る。	○「新任者授業見学会」、「校内授業公開」による校内での実践研修および、「茨城大学附属学校等の教育研究大会」等による校外での指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。 ○「校内教員研修会」、「県外進学校視察」等を行い、中高一貫におけるキャリア形成を促す指導やHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。			
	開かれた学校づくりを推進する。	○中高連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 ○「学校公開」や「道徳公開授業」を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。			
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	○「総合的な学習の時間」を通して進路意識と探究心を刺激し、自らの将来像を考えさせる。 ○「道徳」を通して、道徳的判断力や道徳の実践意欲・態度を育成する。 ○キャリア・パスポートやClassiを活用した自己を見つめる活動を通して、3年間を見通した学習の計画や修正、教育活動の振り返りと次への改善のスパイラル化に資する。			
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。特に来校者に対しては、積極的に挨拶をするよう指導する。 ○校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 ○規範意識を高め、水戸一高附属中学生として誇りの持てる行動をするよう指導する。			
	学校生活の安全を図る。	○思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高附属中学生としての自覚と責任ある行動をとるよう指導する。 ○各学年・保健厚生部・養護教諭との連携を密に、生徒の状況を正確に把握し、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○インターネット依存症防止のために、スマートフォン等の適切な使用法を家庭と協力しながら指導する。 ○インターネット上で個人やグループに対する誹謗中傷や、SNSでのいじめ、仲間はずれ、個人攻撃などをしないよう指導する。			
	交通安全の意識を向上させる。	○自転車は車道の左側通行など、交通法規の遵守を徹底させる。 ○自転車による交通事故ゼロを目指す。通信機器等を操作しながら、またはイヤホンを使用しながら運転をしないなど、安全な自転車の乗り方を指導する。			
	いじめ問題に適切に対応する。	○いじめの未然防止にいつそう努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見するために、各部署との連携を図り、職員全体で情報を共有する。 ○教職員対象の校内研修を実施し、いじめに対する意識を高める。 ○インターネットの適切な利用を指導することで、インターネット上のいじめを防止する。			
情報	ICT機器の整備・管理・運用を適切に行う。	○GIGAスクール構想に基づき、校内におけるICT機器を適切に配備する。 ○内規や管理室(仮称)の整備により、ICT機器の適切な管理・運用をおこなう。			
	学校Webページの充実を図る。	○教員間の連携を密にし、情報の発信が迅速かつ正確に行えるようにする。 ○Webページのレイアウトや項目等を見直し、生徒の活動の様子がより見やすく、効果的なものになるようにする。			
	教育の情報化へ向けた支援活動を行う。	○新学習指導要領の実施に向け、各教科が教育の情報化を進められるように、ICT機器(タブレット、電子黒板等)やソフトウェアにおける支援を進める。 ○職員室の自席で先生方がPCを用いた作業ができるように、環境整備を進める。 ○他分掌、学年との連携を強化し、情報部として可能な支援を引き続き推進する。 ○個人情報の管理やウイルス対策等の注意喚起・情報提供をおこなう。			
	効果的な学校評価アンケートを実施する。	○質問項目を見直し、より一層学校運営に生かせるようにする。 ○アンケートのペーパーレス化を進めるとともに、保護者からの回収率を上げる方策を実施する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
図書	自ら課題を発見し学ぶ生徒を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○教科からの授業内容に関連する推薦図書情報を得て、レファレンス・展示等をおこな い、貸出し利用に繋げる。 ○選書について、多様な興味関心をもつ生徒にできるだけ扱い、中学生向け選書にも 配慮をしてゆく。			
	読書体験ができる機会を設け啓発し、 読書に親しむ生徒の増加を図る。	○総合的な学習の時間(課題学習)での利用をはじめ、生徒一人ひとりの学習で一層 の図書利用が進むように館内POP展示・新蔵図書紹介を進める。 ○おすすめの本を紹介する等のイベントを感染状況に留意しつつ開催する準備を進 め、生徒どうしの読書体験の共有・啓発運動を行う。			
	生徒委員会活動のさらなる活発化を目 指す。	○毎日のカウンター当番等を活動の基盤としながら、生徒委員を主体的に運営できる 生徒の育成をめざす。 ○感染拡大により、大きな活動やイベントができないときに備え、より小さな生徒単位で 行える効果的な方法について検討、実施を進める。			
	機関誌を着実に発行し、本校の歩みを 正しく記録する。	○年報の発行に向けて、編集方針検討や資料収集作業を着実に行う。 ○図書館報2誌の制作を計画的に行い発刊する。			
保健厚生	学習環境の整備に努める。	○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、当分新型コロナウイルス感染症 予防のため、教室等のゴミ箱が使用禁止のため、ごみの持ち帰りを徹底させる。 ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査、ダニの検査を実施 する。 ○モップ交換や普通教室のカーテンのクリーニング、ワックスがけを行う。 ○施設・設備の安全点検を行い、環境の安全の確保を図る。 ○附属中開校に伴い、カウンセリング室の整備を継続して行う。 ○毎日の健康観察の実施、保健調査や各種健康診断等の実施とそれらをいかした事 後指導の実施。 ○食物アレルギーや緊急時の各種マニュアルの制定。			
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に 努める。	○健康診断や保健室利用時などの機会を捉えて、保健指導を行う。 ○保健体育の学習や各教科、HR、行事等との関連をもたせた、事故・けが等の予防や 新型コロナウイルス感染症予防をはじめとする感染症に対する予防を徹底するよう指導 する。 ○各学年、生徒指導部、スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒の心身の健全 な育成を目指す。 ○健康に関する情報提供のための「保健だより」の毎月1回の発行。 ○災害時における避難訓練を中高合同で行い、校内の状況と避難経路を確認し、防災 に対しての意識を高めるよう指導する。また、休日や校外においても緊急事態に対応で きるよう意識づけを図る。 ○中学職員の保健厚生部職員の連携と各種講習会や講演会の実施を検討していく。 ○栄養職員と連携し、衛生的で安全な給食指導の実施と食育の推進。			
1学年	基本的生活習慣の養成を目指す。	○元気な挨拶を中心とした、何事にも前向きに取り組む態度の育成を図る。 ○学校生活の中で自主的に時間を意識した行動をとり、授業時間や給食の時間の十 分な確保を目指した態度の育成を図る。 ○道徳教育を中心として、学校教育全体を通して規範意識の向上を図る。			
	自主学習に取り組む態度の養成を目指す。	○振り返りの時間を十分に確保することで、自分の学習について記録を残し、取り組 べき課題を明確することで、進んで自主学習に取り組む態度の育成を図る。 ○ドリルパークやClassiの学習動画の活用法を指導することで、予習や復習に組み 組もうとする態度の育成を図る。			
	特別活動への積極的な参加を目指す。	○学校行事、部活動、委員会活動等についてのオリエンテーションを充実させること で、積極的に参加しようとする態度の育成を図る。 ○参加の目的や活動の趣旨を明確にすることで、何事にも挑戦しようとする態度を育成 する。			

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない